

新城生まれ、豊橋育ち

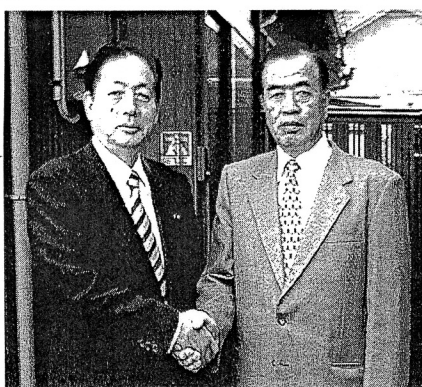
太田国交大臣が誕生

新城市生まれで、豊橋市で育った太田昭宏氏が安倍第二次内閣の国土交通大臣に就任した。

この地域の関係者としては、村田敬次郎氏が92年12月成立の官沢内閣で、自治大臣兼国家公安委員長に就任してから20年ぶりのことである。

伊藤秀昭

伊藤秀昭氏は、今回の衆議院選挙で東京12区(東京都北区、足立区の一部)から出た。そして、全国を回



伊藤秀昭氏(左)と握手する太田氏

逆境からはい上がる

①

つた。特に3・11大震災後の東北へも何度も、何度か足を運んだ。

「この3年3カ月、多くの人に支えていただいた。胸がいっぱいです」とは、選挙時の第一声。

青陵街道に夏みかん並木

■カツオが揚がった。その陰に気仙沼漁協の声を受け、とにかく「カツオ、カツ

オ」と国を動かした太田氏の奮闘があった。

「6月にカツオが揚がれば、気仙沼は生き返る」と市長

副市長、漁業関係者から切実な訴えを聞きまし

た。現場は船も港も街も復興どころか、復旧もままならぬ状況

。「水、油エサの3つを支援してほしい」という訴えに、私は農水大臣

水産庁長官をはじめ多くの方に要請を行いました

となつて、5年後初収穫。70年、この話に感動した詩人サトウハチロー氏が「きいろがきいろが輝きになる」との詩を送った。

その詩は、東田小の青陵街道沿いの法面に掲示されている。

以来50年、今年も101本の夏みかんの木が、たわわに大きな夏みかんを実らせている。

■証言 中学三年の時の同級生住野敏明さん(66＝豊橋市南旭町)は「とにかく、いつ勉強しているのか、わからなかったが、成績は抜群。今回の大臣就任は喜ばしい限り。活躍を期待したい」。

■夏みかん並木 中学時代の恩師石原成章さん(87＝元豊橋市教育長、豊橋市仁連木町)は「太田生徒会長の熱心さに、教職員も動いて、何度も県や、市や警察に交渉に行った。彼の学校を愛する気持ち、地域に貢献しようとする気持ちが夏みかん並木となった。今回の当選直後、彼に『雌伏三年、国を思つた。決然と立つ』と詩を送ったが、持ち前の大誠実で難局に当たってほしい」。

夏みかん並木前立つ太田氏



夏みかん並木前立つ太田氏

その38個の穴に夏みかんの苗が植えられ、代々の生徒会と地域の皆さんが一体